

(別紙)

令和6年3月定例会議 一般質問

3番議員 石田 史行

おひとりさまの老後を支える仕組みづくりを

最新の国勢調査によると、高齢の一人暮らし世帯は、昭和55年に全国で88万世帯だったのが令和2年には672万世帯と、40年で8倍近くに増えた計算になる。

一人暮らし＝身寄りなし、ではないが、核家族化や家族関係の希薄化を考えれば、身寄りなしは確実に増加していると懸念されている。たとえ親族がいても「迷惑をかけたくない」と考える高齢者は多いのではとの指摘もある。身寄りがいない高齢者が地域で安心して生活し、穏やかに最期を迎えられる開成町であって欲しいと願うばかりである。

この点、本町においての高齢者の現状について、第9期開成町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（案）では、高齢者のいる世帯は2,773世帯、そのうち一人暮らし世帯は605世帯となり、平成22年の329世帯から2倍近くに増えていることが見て取れる。

本町は人口増加が続いており、他市町に比べて高齢の一人暮らし世帯の割合は低めに抑えられてはいるものの、確実におひとりさまの老後を迎える町民は増えることが予想される。

そこで、身寄りがいない高齢者が地域で安心して生活し、穏やかに最期を迎えられる開成町であるために、どのような仕組みづくりが必要と考えているのか、町長の見解を伺いたい。